

令和4年度 広島市立看護専門学校学校自己評価概要

広島市立看護専門学校では、平成16年度から自己評価による学校評価に取り組んできました。学則第1条の2第1項「学校は、教育水準の向上を図るとともに、前条の目的を達成するため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行い、その結果を公表するものとする」に基づき、令和4年度の結果を公表いたします。

(前条：学則第1条「広島市立看護専門学校は、学生に対し、看護師として必要な知識及び技術を修得させ、医療の普及及び向上に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。」)

教育理念	1 豊かな人間性や倫理的配慮をもって、地域社会に貢献できる看護師を養成する。 2 専門職者として、自己教育力をもって自律できる看護師を養成する。 3 時代のニーズに対応し得る看護の専門的知識・技術、臨床判断能力を備えた看護の実践者を育成する。	
------	---	--

n=29 (回収率100%) 配付数29 回収数29 (うち有効回答数29) 赤字：平均値3.3以上 (12項目中8項目)

「4：できている」「3：ややできている」「2：ややできていない」「1：できていない」から、
あてはまる点数を記入

	項目	主な内容	R4（期末）			学校としての取り組み事項
			数値	平均	SD	
学校運営	教育理念・目的	①学校の教育理念や目標が教員や学生、保護者に周知されているか。また、実際に教員や学生の指針となっているか。 ②目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の取組につなげているか。	4	3.3	0.8	①新カリキュラム導入により、学校の教育理念や目標を見直した。コロナ禍での行事縮小に伴い保護者と直接接する機会をもてず、文書の送付やホームページ上での一方的な発信となったが、随時更新し広報を行った。 ②4月に令和4年度の学校経営計画を運営会議で協議し決定した。現状分析をもとに取組目標・目標達成のための方策を見直し、教務取組事項に具体策とその内容を示し教務連絡会で協議し同意を得て年間活動を行った。項目毎に中間・期末評価を行い、可視化して次年度の計画に繋げている。学校運営に対して、学生に対しては学校自己評価に関するアンケート内容を見直し、中間・期末の結果を掲示して情報を共有した。教職員に対しては、学校自己評価（中間・期末）の結果を回覧し、全員が閲覧した。3月末の職員研修時に、今年度の学校自己評価についてのまとめを伝達し、次年度の学校経営計画、教務取組事項の立案に繋げていく。
	学校運営に関するマネジメント	①学校全体の情報共有、総務課と教務課の連携は適切に行われているか。 ②業務マニュアルが適切に整備され、必要に応じて適宜見直し、周知されているか。 ③管理職のリーダーシップのもと、各係長がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮して問題解決に当たっているか。 ④学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、その結果に基づき改善を図っているか。 ⑤学生情報を適正に管理するための学生支援システムが円滑に運営されているか。	3	3.2	0.8	①③運営会議は毎週1回開催。校長以下、総務課・教務課全体で、学生に関すること、学校運営に関することを情報共有し、協議・決定した。今年度は新型コロナウイルス感染症関連での休みの取り扱いや単位取得に関する影響が大きく、個々の事例を事例に照らし合わせながら追試・再試の決定、実習補習・再実習の決定を行い、各々の計画を立て、教育機会が確保できるよう協議した。また、昨年度より主任会議を再開し、教務連絡会議の前会議として位置づけ、より身近な情報から問題を共有し、課題解決に向けた協議の場とした。さらに主体性の向上や主幹間の連携強化、学校運営への積極的な参画を期待し、学科年間間の壁を越えて問題共有を行い解決に繋げられるよう動機づけを行い、効果的な学校運営に繋げた。朝礼は毎日実施し、トピックスや事実発生の速やかな伝達、倫理の唱和（1回/週）など全体への周知の機会としている。 ②業務マニュアルを見直したため、教務課フォルダを刷新し、誰もが共通した実践ができるよう各学年担当・業務担当者中心にマニュアルを最新化した。学生便覧は新カリキュラム導入により、今年度、第一看護学科に在籍する者に係る改正を行い、次年度に向けて第二看護学科の改正に取り組んだ。 ④学校自己評価推進のための業務分担を行い、中間・期末評価をまとめ、その都度具体策を改善し、目標達成に向けて取り組んだ。学校運営について、学生・教員のアンケート結果をまとめ、外部関係者のご意見を頂き、設置者へ報告後、ホームページで公表している。 ⑤学生支援システムを活用し、学生情報や成績管理を適切に管理している。新カリキュラム導入による項目変更や調整を行い、その都度、手順を修正した。
教育活動	教育課程	①教育課程は看護学の内容、求める学修の到達及び学生の成長について明確な考え方と根拠をもって編成しているか。 ②学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容となっているか。 ③単位認定の基準及び方法は、看護師に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当であるか。 ④未履修科目の原因分析を教員側と学生側で実施し、対応策を講じているか。	4	3.6	0.6	①②教育課程はカリキュラムの変更により「授業科目等」、「単位の算定基準」など教員会議で検討し、学則の変更を行い申請し、承認を得た。具体的には内容については各分野担当者が目的・目標・内容について検討を行い、全体の調整を行った。加えて実習関係施設へ教育課程の変更点を説明し、実習の継続を依頼したり、地域・在宅での新規実習先の調整を開始した。今年度の教育過程は、感染状況の対応として授業方法を適宜遠隔に変更する等工夫し、全課程を修了した。内容と評価についても、シラバスと評価計画表に照らしあわせ遵守して実践した。 ③学生の単位修得に関して、検討が必要な事案は状況を十分に把握し、シラバスや便覧の成績評価要綱に則り、事例ごとに確認した。単位認定会議（進級）については予定通り3月に開催、卒業認定会議については2月に開催し、会議時に補習や再実習などで単位認定できなかった学生に対しては条件がクリアできた時点で認定卒業。卒業に関しては、第一・第二看護学科3年生全員を認定した。 ④学生の未履修科目については、教員が学生と面談して一緒に対策を考えた。本人、保護者及び教員間での情報共有に努め、同意のもと進めている。さらに、第一看護学科新入生より新カリキュラム導入となり、2年生の未履修科目の旧カリキュラムでの履修に関する調整など、全科目の対応を決定した上で、個別での履修プログラム編成を行った。対象学生・家族への説明を行い、意思確認を行い、授業の調整を開始した。
	シラバス（授業計画）	①シラバスと教育課程に整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ②スムーズな授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。 ③学生の状況に応じて授業内容や指導方法を考え、工夫・改善しているか。 ④学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか。	3	3.3	0.7	①シラバスによる科目目標・授業内容・テキスト・評価等について学生に提示した。授業担当者は今年度の授業内容を参考に、次年度の授業計画（授業内容、講義・演習）の検討を行い、より具体的な表現に改善した。 ②授業運営に関しては、月間カリキュラムを前月10日までに調整し全体に周知している。各学年の授業計画がスムーズに遂行出来るよう、月間表で調整を位行っが、今年度は講師の調整においてクラス間での進捗状況に差が生じたため、次年度は作成時に調整を図りたい。 ③学生個々の状況に応じてチューター・担任・主任を主体として体調管理を含めた学習環境の調整に積極的に関り、本人・保護者への支援を行った。 ④毎年、科目ごとに授業・評価が終了した科目について授業評価アンケートを実施し、「授業・実習評価」としてまとめ改善に繋げている。
	実習	①実習目標が達成されるよう実習環境が整っているか。 ②実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力して実習指導にあたる体制があるか。 ③実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ④実習時のインシデント・アクシデントを分析し、学生指導に活かしているか。	4	3.3	0.8	①②コロナ禍であるが、臨地実習施設との臨地指導者会議は臨地実習をいつでも開始できるように会議を実施したり、必要時電話等で情報共有に努めた。10月末からは、コロナ禍での感染対策・対応について細かな情報共有につため、臨地施設も協力的にこの対応にいたいただき、臨地実習を継続することができた。また、精神看護学では、新規実習施設として1施設開始し、臨地実習の場を確保できた。臨地実習時から学内実習への変更時は、今年度もリアリティのある実習を計画し、「シナリオ」2体や「産科の模型の人形」を活用することで、昨年度に引き続き臨地に近い学内実習に取り組んだ。 また、臨地指導研修会や統合実習でのシミュレーションを通じて学生を指導していただいたり、臨床と教員が情報共有しながら、現代の学生の特性や教育課程について、また臨地実習指導者と教員の役割・連携についてお互いの理解を深めることができた。 ③実習時の患者への配慮は、臨地実習要項内に個人情報保護、契約書・同意書についてや臨地実習時の心得等を記載し、学生への説明、指導を行った。コロナ禍での臨地実習の場では、学生の体調管理や実習に臨む姿勢など医療従事者として他者へ与える影響についての思考が浅い傾向にあり、度重なる指導を要した。その中でも、臨地実習先での継続した受け入れ対応に大変感謝している。 ④実習時のインシデント・アクシデントに対しては作成しているフローに沿って対応した。臨床とのスムーズな情報共有、患者・家族への対応を含め周知し、対策に努めた。また、臨床指導者を交えた研修会で、患者の安全について考える機会を得た。
	学生支援	①学生が学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が利用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。 ②学生の心身両面での健康管理体制が整っているか。 ③学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分に応じているか。 ④学生主体で自治会活動が実施できるよう計画的かつ適切な指導・支援を行っているか。 ⑤図書室は利用しやすい学生に十分活用されているか。	3	3.2	0.6	①②③スクールカウンセラーと前年度の実施・評価を基に今年度の年間計画を立てた。カウンセリング（個別・グループ）を計47時間、スクールカウンセリング授業・オリエンテーションを計15時間、教員研修・連携として4時間、予定通り実施した。また、チューター制も残りつつ2年前から担任制を導入し学生支援を行っている。チューター制は主に精神面のフォローを行い、教員1名が学生10名程度を担当し学生支援を行っている。ただし、学生アンケート結果から、「スクールカウンセラーによる安心感」に安心と回答した学生は82.4%であり、1.36ポイント低下した。さらに教員の「精神的サポート」は85.8%と6.0ポイント低下した。教員評価においても、この項目は3.2の評価となり、0.3ポイント低下した。コロナ禍での授業調整・実習再開による自己の体調管理や報告の難しさ、進学・就職活動の制限等の対応による現状から要因を分析して改善に繋げていきたい。また、経済面では、昨年度に引き続き新型コロナウイルスによる学生への支援対策としての奨学金が複数提案され、その都度、奨学金担当者は学生の選定や対応を行い、学生を支援することができた。 ④自治会活動は、コロナ禍継続により、オープンスクールや学校祭は中止した。その他の行事として、スポーツ交流大会はWEBで実施し、応援合戦では学生が力を合わせて優勝できた。自治会運営においては、学生の主体を促し、金銭の管理等はその都度担当教員が関り、運営の補佐を継続した。 ⑤図書室利用については、担当者を1名配置し、教員経験もあることから、学生の状況を見ながら看護過程の資料ファイルの活用や文献検索の支援を行った。学習面や継続方法についての質問・相談に対応した。図書の利用時間などの意見があり、検討していく。
教職員の育成	教育技術の向上	①教員が計画的に研修に参加できるよう支援しているか。 ②学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。 ③研修や学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ④授業を他の教員が参観、講評できる機会があるか。	3	3.3	0.6	①③教員の研修に関して、希望する25名の教員は遠隔配信を含め全員研修・学会に参加することができた（全体の83%参加）。研修参加後は、復命書と研修参加資料を回覧し、研修内容の共有を図っている。ただし、教員より、学会参加後の伝達講習がもっと行われるれば知見が広がるという意見が複数あり、共有の方法や時間等を考える必要がある。また、教育と研鑽に根ざした専門性に基づき、看護の質向上を図るため、「小児看護過程演習におけるプレパレーション演習の効果」について看護研究を行い、日本看護研究学会第48回学術集会にて研究発表を行った。 ②④公開授業は今年度も教育委員会の方を招き、例年通り実施した（小児）。カテゴリーの公開授業は母性・基礎で実施。授業研究も例年通り4つのカテゴリーが実施した。他、職場内研修は、夏季と春季の2回開催し、進捗状況の確認や課題に対する検討を行ったり、例年の倫理や人権についての研修に加え、コロナ禍のリフレッシュを兼ねた研修を行った。
	看護教員の育成・確保	①人材育成・人事交流推進に向けて広島市立病院機構と円滑な連携体制を確保しているか。 ②看護教員が働きやすい職場環境を整えているか。	3	3.0	0.9	①今年度は1対1で人事交流を実施した。機構からの最新の医療現場の知識を保有している異動者（看護師）1名は広島県看護教員養成講習会を受講し、2月より専任教員として勤務している。機構へは1名機構病院へ異動し、臨床現場での教育経験を活かした活躍を期待している。また、臨床指導者会議や臨床指導研修会を通じて情報共有を行いながら、学生の状況理解や最新の医療情報の知識などを得る機会となっている。 ②今年度、産休・育休等による欠員補充のためeナースセンターを利用して募集を行った。専任教員確保はできず、事務員や看護師で充足した。年休取得に関しては季節ごとに広報し、年休取得日数の少ない教員へ直接声をかけたり、定時退社日を設定するなど体調管理に繋げた。コロナ禍での学習機会の確保や新カリキュラムの導入等で教員への負担が増しており、負担軽減のための教務事務の配置の要求を継続していく。
入学・就業・就職	入学者の確保	①より多くの応募者を確保することに努めているか。 ②入学者の状況について、入学者選抜方法の妥当性から分析し、検証しているか。	3	3.4	0.7	①今年度は、コロナ禍で中止していた学校説明会を事前に募集を募り、2回開催した。ただし、在校生との交流は1回目は動画での参加のみであったが、2回目は対面での相談コーナーを設けて学生生活伝えることができた。両日とも約80名程度の参加者を得た。1回目は金曜日、2回目は土曜日に開催し、社会人や第二看護学科への入学希望者の来校も促すことができた。また、高校や企業主催のガイダンスなど参加エリアを拡大し、教員が可能な限り参加した。学校のパンフレットや募集要項の配布箇所を昨年度から拡大継続した（希望者、実習先、市役所の市民広場

◎外部関係者のご意見

＜学校運営目標に関して＞

・教育理念の実現に向け、教育課程の編成及び実施・教職員の技術力の向上、育成及び確保・学校の情報発信・社会貢献等、多方面にわたる視点から学校経営目標を設定しており、組織的な学校運営が行われている。今後も、社会の変化や教育の動向に注視しつつ、本市の看護教育の更なる充実に向け取り組んでまいります。

・会議等を通して、学校運営目標やその取り組みと評価、今後の課題などを共有することができ、開かれた学校運営をされていることが分かる。・会議運営については形骸化しないよう参加者からの今後の会議のあり方など意見を求め検討して頂きたいです。

・HPの充実をされており、そこから理念・目的をわかり易く知ることができました。五施設臨床指導者研修会で当院からのお世話になられ良い学びに繋げることができており、学校側の指導者育成への熱意を感じています。・HPは広島市からリンクするため内容が少し堅苦しいイメージになってしまっていますがこれは仕方のない事であるが、学校HPからYouTubeへリンクして動画配信されていることで生徒を集めるきっかけになりやすい。この機会にもって指導者になることを希望しています。

＜活動内容に関して＞

教育理念の実現に向けて、今年度は、第一看護学科において新カリキュラムを実施するとともに、来年度は、第二看護学科の新カリキュラム導入に向け取組を推進するなど、社会のニーズや学生の実態を意識し、適宜改善を加えながら、適切に教育活動を行っている。今後も、教職員の連携を密にし、各取組について、組織的な教育活動を実施して参りたい。

・第一看護学科は新カリキュラムに沿った教育計画を立案し、計画通り実施できている。コロナ禍3年が経過するなかで、臨地実習中止の影響もあり、看護技術の習得に向け、学内実習や感染が落ち着いている時など、臨地実習が再開できるように努力をされている。この取組の組みの結果が学生アンケート結果でも示されているように、「看護技術の経験ができる実習」「実習に活かせる看護技術演習」ポイントの向上につながり、学生育成の評価ができている。

実習指導者会議も定期的に行っていたが、お互いの認識の統一が図れているのと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。学生のレディネスに応じた準備ができるよう今後も情報をいただければと思います。・時期ごとの指導者会議では先生方の説明から学校の状況が良く解ります。日々学校の指導が効果をあげ、臨床実習に繋がっているのと思います。臨床サイドで十分な指導ができない部分を先生方に補って頂き、円滑に実習が進んでいると思います。先生方がとても熱心なところが、他の学校と違い評価ができるとうただと思います。・実習では、学校の出席状況を報告していたが、受入側が把握できた。

・旧カリキュラムと新カリキュラムの混在する状況で、調整と優秀な再実習を行い、全員卒業を達成されている。また、次年度に向けての計画でも学年ごとでカリキュラムを考慮して作成されている。

・機構内の人事交流について、学校人材の確保と機軸職員として優秀な人材確保のための連携協力には必要である。1対1といった決めたうえで柔軟に対応できるようにすることを双方にお願いしています。・入学者の確保に尽力されており期待します。

＜自己評価結果（数値評価）に関して＞

・自己評価の結果に関して、1、2項目中8項目の平均が3.3以上であり、概ね満足できるものとなっている。・学生支援と教職員の育成に関しては、ポイントが下がっており、取り組んだ内容などを振り返ることで、より明確な課題を挙げられている。自己評価することで、次年度の改善・取り組みへとつながることを期待している。

・学生の1、2項目のポイント低いが気になりますが、ルーブリックを活用している学校もあるようですが、本校では導入について検討されたのでしょうか。メリット・デメリットが有るかも知れませんが、実習授業など学生と共有することができると思います。

・全体的に見て1項目中1、2項目の学生アンケートが低下していると記されていますが、大きな差はないと思います。むしろ実習でできなかった部分で先生方のシミュレーション取組などから、しっかりとアセスメントできる新人看護師も入職されています。看護職に魅力を感じると回答した85.8%の学生が今後臨床現場で成長できるように学校と連携をして、こちらも取り組んでいます。

＜その他 ご意見・御要望等＞

- ・社会人基礎力を養い、就職できることが望ましいので、学校生活の中で適宜声掛けをお願いしたい。
- ・入職後メンタルサポートの必要な職員が増加傾向であると言えます。基礎教育の段階からのサポートと入職後の連携体制についてご検討頂ければと希望します。
- ・教員とは実習中概ね意思疎通を図りながら学生指導に努めているがと思う。(技術や業務において)事前に分かればスムーズであったと感じた。
- ・学生アンケートについて、低くなっている項目が「実習に活かせる講義内容」「わかりやすい実習指導」であり、その要因を分析し、次年度に向けて、実習に係る授業の改善を図ることが重要だと考えられる。